

◎ 真心ある政治「こころのよりどころ通信」

大野市議会議員 林よりかず活動報告



林 順和 Hayashi Yorikazu 昭和52年(1977)生まれ 46歳
中央大学卒、大野市議会議員2期目

大野市議会議員の林順和です。政治は常に国民、市民のものでなければなりません。私は日ごろから現場を大切に、話を聞いて、「誇れるまち・大野」実現のため、市民・事業者と行政との橋渡しを心掛けています。

今回は、市民に負担を求める使用料改定に向けた動きや文化会館整備を巡る市長発言等、6月議会で議論した内容を中心に伝えたいです。官民双方の信頼関係を構築しなければより良い議論はできません。市民等の思いに込める行政運営を強く求めました。

引き続きのご指導、ご支援をよろしくお願いいたします。

旧乾側小学校跡地は公民館建て替えへ…ZEB化の効果に疑問

【現況と方針】一部借地のため校舎等の解体後に水田復旧整備を行った上で地権者へ返還(令和9年度)し、体育館は改修して公民館を建て替える予定。現在の公民館部分に小グラウンドと駐車場を整備する内容です。



- (問) 公共施設の再編を進める中、公共施設の計画に新築方針が示されていない。
(答) 「現状維持」とした施設方針には更新(新築)も含まれる。
- (問) 6月補正予算に繰越明許費(33,566千円)が計上された理由は、公民館の利用開始時期や業者への支払いに影響はないのか。
(答) 議決後の入札や業者への支払いは令和6年度中もできるので影響はない。公民館の利用開始も令和8年度中と地元で説明している。今回、国の補助金の要件(必須)ではないが、公民館にZEB化(※)を組み入れるのに時間を要するため繰越明許費を設定した。

(※)ZEB化とは、ネット・ゼロ・エネルギー・ビル(Net Zero Energy Building)の略で、年間のエネルギー消費量収支ゼロを目指す建築物のこと。今回は原則30%削減(ZEB-Oriented相当)以上とし、可能な限り50%削減(ZEB-Ready相当)を目指すとしている。

文化会館の整備で市長「踏みとどまる」発言…困惑する市民に自ら説明を

文化会館を巡る経過

- 令和4年3月 市が公共施設の計画を改訂し、その中で「必要な設備の更新や修繕を行い、耐用年数を迎える令和8年6月までに休館を検討」と明記
- 令和4年12月 大野市文化協会から提出された「大野市文化会館の整備に向けた早期検討を進めるよう求める陳情書」を議会として採択
- 令和5年6月 1228万円の補正予算を議決(文化会館のあり方検討委員会の開催や調査にかかる委託料)
- 令和5年8月2日 大野市文化会館あり方検討委員会(第1回)
- 令和5年8月31日 大野市文化会館あり方検討委員会(第2回)
- 令和6年1月22日 大野地区第三地区が市長へ要望書を提出
- 令和6年4月30日 大野市文化会館あり方検討委員会(第3回)
⇒第4回は令和6年7月を予定
- 令和6年6月3日 議会本会議で市長「踏みとどまる」と発言

第3回委員会において、4つの整備案(※)を示したばかりの「あり方検討委員会」での議論を踏みとどまり、既存施設の音響、照明を改修する方針を示した今回の市長発言は、市民を困惑させています。関係者に対し市長自ら説明するよう求めており、議会としても議論していきます。

休館方針を示した後、代替案の提示が無かったため、議会として検討を進めるよう求めましたが、令和5年度当初予算での関連予算の計上が無く、速やかな対策を求めました。

(※)新築もしくは増築の整備案を調査する予算に対して「調査結果が無駄にならないよう」求めた上で議決。なお、候補地の一つであった学びの里「めいりん」は、学校時間中は利用できないなど実現性が乏しいことから対象から外すよう求めた結果、①現敷地での新築、②駅東公園に新築、③結とびあ裏に増築、④図書館横に増築—の4案で調査が行われました。

現在の文化会館は避難所となっており、新築されない場合は相応の避難所新設を求める内容。

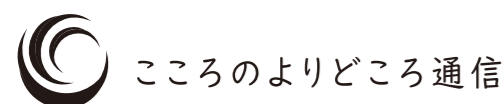
編集後記

開かれた議会として、6月議会から本会議のライブ中継が始まりました。市議会は平日の開催であり、傍聴に行けないとの声もありました。議会だよりも読みやすいレイアウトに。

◇議員の役割は何なのか？
議員個人の政治活動やそれに対する評価は人それぞれ違います。ただ、多様な意見に耳を傾け、自分なりに考え方をまとめた上でより良いものを選択したり政策提言したりする場が「議会」であり、その一員であることは議員の重要な役割だと感じています。

議員定数が2名減り、役割と責任は大きくなっていきます。だからこそ、多様な世代が参画できる環境整備や議会活動の見える化など、議会自らの改革をどんどん進めていきます。

発行元 林よりかず後援会事務所 【電話・FAX】0779-65-0276 大野市春日二丁目5-13



大野市議会・本会議の様子(ライブ中継)や議事録は大野市ホームページ「大野市議会」のページで確認することができます。右記のQRコードを読み取ると、簡単にアクセスすることができます。ぜひ、ご確認ください。



<https://hayashi-yorikazu.jp/>

「こころのよりどころ通信」バックナンバーや最新の市政情報は、右記のQRコードを読み取ると、簡単にアクセスすることができます。



持続可能な大野市へ！令和6年6月議会一般質問

消滅可能性自治体(※)に対する市長の受け止め、職員への指示は。

(市長答弁)若年女性の減少率が改善しているのはこれまでの成果と捉えている。地域づくりのプレイヤーは一人ひとりであり、住み続けるためにみんな考え、方向性を合わせて一歩踏み出そう。

第六次大野市総合計画の政策を着実に推進するよう、改めて指示。後期基本計画策定の中でウェルビーイング(幸せな状態)、女性活躍を盛り込んでいく。

(※)令和6年4月、民間組織「人口戦略会議」が発表した地方自治体の持続可能性に関する報告書の中で、全国で744自治体、県内では大野市など8市町が将来的に消滅の可能性がある公表

林の視点

3月議会で指摘したように、市の施策に関わる女性も多くいることから声を聞き、現在の取り組みが市民に受け入れられているか確認するとともに、他市町との競争、危機感の庁内統一、官民で課題を共有して生き残り策に選択と集中を求めた。

上庄中など空き校舎、学校跡地の有効活用策は。

(財政経営課長答弁)地域の意見を聞きながら検討、令和7年度を目途に方針をまとめる。なお、尚徳中校舎は建物劣化調査に基づく結果を踏まえて解体を進める。方針が定まるまでは両校グラウンド・体育館は部活動等で活用。いただいた意見も参考に、財政経営課内に設置した公共施設再編推進室が中心にしっかりやっていく。

林の視点

再編に関わった市民から問い合わせがあった点を指摘。しっかり伝え、着実に進めていくためにも全庁挙げて行政改革のスピードを上げていくよう求めた。文部科学省の「廃校プロジェクト」を活用した事業者とのマッチングも提案した。

学校再編後の部活動の加入、地域クラブへの移行状況は。

(教育総務課長答弁)開成中に運動部7つ、文化部2つ。陽明中に運動部8つ、文化部4つがあり、全体の81%が加入している状況。統合前の生徒の入部状況は、昨年度と同じ部活動が65%、違う部活動が21.7%、未加入が13.3%。

休日の地域移行は実証事業3競技(バスケットボール、サッカー、軟式野球)と吹奏楽部に、陸上、バレーボール、卓球、バドミントン、ソフトテニスの5競技を加えたすべてのクラブで実証事業を開始。円滑に進むよう検討を重ねる。

林の視点

これまで部活動の選択肢が限られていた旧上庄中、旧尚徳中、旧和泉中の生徒のうち、2割以上が違う部活動を選択できたことが分かった。休日における部活動の地域移行も地域団体の協力により他市町に先んじて取り組みを進めており、市長に対し、文部科学省などにアピールして予算を確保するなど、国や県への働きかけを求めた。

使用料等の見直し検討指示の概要や想定される規模は。

(行政経営部長答弁)昨今の物価高騰等の影響を受けて経費が上昇しており見直す。6月下旬に学識経験者や施設利用者の代表などで構成する委員会で意見をいただく。範囲は条例で規定されている施設使用料などで、法令で規定される保育料等は除く。

減免や免除、冷暖房費用の取り扱い、団体等による行政財産の一時使用についても統一的な基準を検討。検討状況はその都度ホームページ等で公開し、透明性ある議論を進める。

林の視点

見直しは増減どちらもあり、部活動の地域移行を進める中で子どもたちの活動に対するナイター等の使用料減免を求める声がある。委員会での検討指示を市長に求めたが、その部分も含めて検討を行うと部長が答弁。「こどもまんなか応援サポーター」を宣言した大野市として目に見える行動を強く求めた。

学校運営協議会(コミュニティスクール)の協議状況は。

(教育総務課長答弁)令和5年度から市内全小中学校において学校運営協議会を設置し、委員は教育委員会が任命。学校運営の基本方針や教育活動への意見をもらっている。協議会開催前に授業参観などを行っている学校もある。

学校運営協議会の事業に地元負担を求めるのか。

(教育委員会事務局長答弁)必要な場合に負担をお願いしたい。

負担金が前提では活発な意見が出ると思えないが。

(教育長答弁)地域の中の学校が基本、有終南小学校であればイルミネーションなど地域が学校を大事にしている。それが基盤。校庭芝生化の件はしっかり検証して次につなげていきたい。

林の視点

市長は、子育て応援パッケージを通して「子育てが楽しく、地域が応援してくれる」ことが少子化対策だと述べており、その実現に向けて学校運営協議会での活発な議論と事業化を後押しするよう求めた。

第60回名水マラソンに対するふるさと納税の実績、活用は。

(産業政策課長答弁)寄付件数95件で100万円の寄付が集まった。(政策推進課長答弁)集まった寄付はすべて事業に活用した。

林の視点

寄付者の情報が大会パンフレットにも掲載がなく、市長あいさつでも触れられず残念。寄付者に対する配慮や市民目線の丁寧な対応を求めた。

あれ、どうなった？

日本一の星空 六呂師高原活性化



大野市南六呂師区が令和5年8月21日、星空の世界遺産とも呼ばれる星空保護区の認定を受けました。日本国内で4例目、アーバンナイトスカイプレイス部門ではアジア初。

市では、「世界に誇る美しい夜空を守り続けながら、市外に広くPRし観光誘客も行っていく」としており、市内事業者が稼ぐキャッシュポイントの一つに六呂師高原周辺を掲げています。さらに「日本一美しい星空」の商標登録も行っていくとのこと。

また、福井県とともに進める六呂師高原活性化構想に基づく民間プロジェクトは、福井県が4億円を上限に補助してミルク工房奥越前周辺にオートサイトキャンプ場が整備される計画です。

市に対して星空保護区認定後の主体性を持った戦略的な観光誘客のため、観光事業者同士の連携や地元農作物等の活用、トロン温浴施設うらら館の管理運営方法見直しなどを求めています。